



ARAKITRONICS

NOBUYOSHI ARAKI
ON CD-ROM

DIGITALOGUE HOME MUSEUM

SUGGESTED ORDER MOVIE



DIGITALOGUE

ARAKITRONICS

NOBUYOSHI ARAKI ON CD-ROM



ALL RIGHTS RESERVED. NO PART OF THIS DATA MAY BE REPRODUCED, STORED IN A RETRIEVAL SYSTEM OR TRANSMITTED IN ANY FORM OR BY ANY MEANS, ELECTRONIC, MECHANICAL, PHOTOCOPYING, RECORDING OR OTHERWISE WITHOUT THE PRIOR PERMISSION OF THE PUBLISHER.

PRODUCED BY DIGITALOGUE Co., Ltd. DMH-00 1994





DIGITALOGUE HOME MUSEUM SERIES-5

ARAKITRONICS

SUGGESTED ORDER MOVIE

DIGITAL PHOTOGRAPHY ON CD-ROM FOR THE MACINTOSH COMPUTER
PRODUCED BY DIGITALOGUE Co., Ltd. PROPELLER ART WORKS Co., Ltd.
必要システム Macintosh LCII以上 (68030以上のCPU)、漢字トーク7以上、
空きメモリ 5MB以上、QuickTime 1.6以上、13インチ以上のカラーモニター、
24bitのビデオボードまたは16bitカラー表示可能なシステム

定価 ¥8,800 (本体価格 ¥8,544) ©1994 NOBUYOSHI ARAKI, DIGITALOGUE Co., Ltd.

SUGGESTED ORDER MOVIE SYSTEM
見る度に違う印象が得られる！
CD-ROM写真集の新しい可能性を開拓する、まったく新しい写真構成システムを採用
必要システム Macintosh LCII以上 (68030以上のCPU)、漢字トーク7以上、空きメモリ 5MB以上、QuickTime 1.6以上、
13インチ以上のカラーモニター、24bitのビデオボードまたは16bitカラー表示可能なシステム

ARAKITRONICS NOBUYOSHI ARAKI ON CD-ROM



DIGITALOGUE HOME MUSEUM
SUGGESTED ORDER MOVIE

全編デジタルカメラによる撮りおろし
日本の写真界を代表する荒木経惟、
初のCD-ROM写真集！
見る度に違う！1000点をこえる写真を収録！



パワー・オブ・エロス 荒木経惟の現場

飯沢耕太郎

荒木経惟の撮影現場に立ち会った者は誰でも、その圧倒的なパワーに驚かされるだろう。たとえどんなに疲れ果てていたとしても、カメラを手にしてファインダー越しに対象と向かい合った瞬間に、彼の全身に精気がみなぎる。シャッターを切り続けるごとに、エネルギーが大きくふくれ上がり、その場のポテンシャルがどんどん上昇していく。写真家の力量とは、小手先のテクニックではなく、現場の全体を彼自身を中心とした渦の中に巻きこんでいくパワーだと思うのだが、荒木のそれは群を抜いている。

それに加えて、彼の場合には言葉による効果がある。「オレはカメラじゃなく口で撮ってるんだ」と荒木が言うのを聞いたことがあるが、現場にいとそれが実感として伝わってくる。ダジャレや感嘆符も含めて、言葉が連射砲のように飛びかい、モデルを包みこんでいく。その言葉のシャワーは、モデルの身と心をリラックスさせ、写真の方に開いていく役目を果たしているようだ。「きれいだよ」と荒木が言えば、本当に彼女の貌つきがみるみる変わっていく。そんな魔術のような場面にも何度か立ち会うことができた。

1993年9月21日、佐賀町プリュスタジオでも、荒木マジックが渦巻いていた。はくがスタジオ入りした時には、既にパワーは全開で、スタッフ全員が異様な躁状態に入りこんでいた。こうなれば、もう荒木の思うがまま、どんな危ないポーズでも可能となる。モデルがいい反応を返せば、荒木も気分よくエスカレートすることができる。荒木の名言「男と女の間には写真機がある」が示すように、撮影はカメラをはさんだ男（写真家）と女（モデル）の間の

さまざまな挑発や駆け引きの総体なのだ。

今回は、荒木にとっては、CD-ROM制作のためにデジタル・スチル・カメラを初めて使用するというハンディキャップがあった。使いなれたブラウベル・マキナやヘキサーではなく、モニターからコードが繋がった、ごついカメラを使わなければならない。しかし、荒木にとっては、器材が変わることはハンディではなく、むしろ撮影をよりエスカレートさせていく刺激になったようだ。二日間の撮影で3000カットという物凄い量がそのことを証明している。

ここで荒木が試みようとしたのは、一つのカットに特権的な意味を与え、恣意的な美学によって統御しようとするやり方への挑戦であろう。質ではなく量が、瞬間ではなく連続が、秩序ではなくイメージの本質的なアナーキズムが、写真撮影を隠微に支配し続けてきた原理に対置されるのだ。

結局のところ、今回の撮影セッションで荒木が貫いていたのは、エロスに本来的に備わっているパワーをストレートに見据えることだったと思う。そのためには余分な要素は必要ない。衣裳や照明やメーキャップは、そして二十歳になったばかりのモデルのダイナミックな肉体のすべては、その目的のために捧げられた。そこではモデルのMASHも、荒木本人すらも、その“荒ぶる”力の場に引き裂かれている。われわれもまた、目をそらすことなく、その圧倒的なパワーを受け止めるべきだろう。

(写真評論家)

CD-ROM写真集の新しい見せ方 SUGGESTED ORDER MOVIE SYSTEM

江並直美 DIGITALOGUE GENERAL PRODUCER

この作品集のための撮影は2日間にわたって行われた。そのあたりの事情は写真評論家、飯沢氏の原稿に詳しいと思うので省略するが、とにかく荒木氏のすさまじい写真力には驚かされた。今回、撮影にはコダックのデジタルスチルカメラを使用したのだが、荒木氏は勿論初めてにも関わらず、全く普通のように撮影は展開された。このカメラはハードディスクに直接画像を記録していく。よってハードディスクの容量の許すまで、フィルム?の交換なしに(おそらく140カットぐらい)連続して撮影する事が出来る。しかし、氏のパワーはあつと言う間に次から次ぎへと用意したディスクをいっぱいにし、2日間でなんと3000数カットを撮した。

本における写真集の構成は、そのテーマによって演出効果を考えながら行われる。その写真が掘られた内容的意味が明確に存在しない場合、色彩、フォルム、写真のもつ表情などを考慮し構成していくわけだが、つまるところ視覚的快感の追求と構成される写真群が持つニュアンスの一つの提案、と言っても過言ではないと思う。そして、そこには構成した人間のイメージネーションと感性、そして考え方が定着される。

しかし、私自身が本の写真集を構成していた時、よくはがゆい思いをする事があつた。たとえば同じシークエンスで良い写真が多数ある場合である。構成上やページ数の関係で、落とさざるえない素敵な写真は多々ある。また、写真の構成、並びはちよつとしたことでニュアンスが大きく変わる。印刷に定着する前に様々なシミュレーションを行うわけだが、最終的にはひとつのベストを選ばざるえない。

本CD-ROMは、数多くの写真集を発表されている荒木氏にとっては、初のCD-ROM写真集である。氏の現場を見た印象。そして数多くの写真素材を目の前にして一体どのように制作すれば、荒木氏にとってのこの冒険をうまくまとめることができるかが、わたしたちにとっての課題だった。CD-ROM写真集の特性を生かした写真の見せ方とは一体なんだろう。本のそれと比較して多数の

イメージが収録できる。カラー、モノクロームの混合構成も制限なく出来る。そして音や動画像を組み込み、たとえば写真家や評論家のインタビューなどを盛り込んだインタラクティブな構成も出来る。いくつか当たり前の特性を挙げることは出来るが、果たしてそれだけだろうか。もっと他に何か方法はないかと考えたあげく考案したのが、この毎回違った写真構成のプレゼンテーションを提案してくれるシステムである。勿論プログラムが任意に写真を選び出しているといつても、いくつかの鑑賞上の基本ルールは設定してある。それこそ、数万とうりの組み合わせが存在するわけで、見るたびに違った印象が得られ、時には息表をついた、あるいは論理を越えた写真の構成を見せてくれる。

こういう手法を、SUGGESTED ORDER MOVIEと名付けてみた。

そして、このCD-ROMにはもう一つ大きな特徴がある。それは荒木氏が撮影したコンタクトを順番に見ることで、氏のカメラアイを追体験してみようという試みである。このシステムは、1993年に発表した伊島薫氏のCD-ROM写真集「新美人論」で初めて試みた方法であるが、今回は操作性を重視し全く違うインタラクティブをデザインしてみた。

結果として、写真イメージを本というオブジェから解き放ち、手に触れることは出来ないがもっと自由に見れる。作り手自信も鑑賞者になり、見るたびに新たな発見と印象を持てるようになったのではないだろうか。そんな新しい写真の見方をマルチメディアが実現し始めたのである。

電子メディアで行う新しい試みは前例が存在しない、何事も初めてかも知れないという快感がつかまとう。しかし、実験はさらに新しい工夫とアイデアを慎重に重ねていく必要があるだろう。方法論やテクニック、そして考え方を型にはめてしまうほど退屈なものはない。コンピュータを発想の道具として考え、ましてやこの自由なメディア、マルチメディアを育てるには、これからも絶え間ない挑戦的な実験と試みが必要だと思う。






DIGITALOGUE HOME MUSEUM-5
ARAKITRONICS
 SUGGESTED ORDER MOVIE

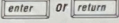
PHOTOGRAPHER	NOBUYOSHI ARAKI	DCS OPERATOR	SHIN KOBAYASHI
MODEL	MASHI & MARYE	EDITORIAL STAFF	DAN TAKASUGI
PRODUCE	NAOMI ENAMI	JACKET DESIGN	YUKIE ITO
MULTIMEDIA DIRECTOR	NAOMI ENAMI	SPECIAL THANKS	KOHTARO IIZAWA
Co. PRODUCE	KUMIKO OKISHIO		AKIRA GOMI
			KODAK JAPAN LTD.
			SAGACHO-BLYUCE
			KODAK DIGITAL CAMERA SYSTEM
			NAOMI ENAMI
CD-ROM STAFF	MARKI KIMURA	STUDIO	DIGITALOGUE Co., Ltd.
PROPELLER ART WORKS	KOYA INADA	HARDWARE	3-27-7 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150
	AKIKO KUSUHARA	PUBLISHER	Tel 03-3408-2494 Fax 03-3401-5933
	RIE YOSHIZUMI		
EVIL EYE	TOMOHISA SHIBAYAMA		
OFF DESIGN	SATOSHI ISHII		
SHOOTING STAFF	ANSAI	DIGITALOGUE WORLD WIDE DIVISION	O1994 NOBUYOSHI ARAKI, DIGITALOGUE Co., Ltd.
STYLIST	SHIRO TAMIYA		
	CHIEKO IWATA		
	SATOMI WADA		

All right reserved. No part of this Publication may be reproduced, stored in a retrieval system or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise without the prior permission of the publishers.

KEY CONTROLS 操作方法

「ARAKITRONICS」では、画面の構成上、明らかにボタンとわかるオブジェクトは極力避けられています。しかし、ボタンが必要と思われるところには配置されており、カーソルを合わせることで表示されるように設計されているものも多くあります。説明書以外にも、CD-ROMに含まれるドキュメントやオンラインヘルプに使い方が記されていますので、併せてお読みください。

ムービー再生中の基本操作

■ポーズ		■ポーズ解除	
■メインメニューへ	 <i>enter or return</i>	■終了	 + 
■スピード・遅い		■スピード・普通	
■スピード・速い		■ポーズ/ポーズ解除	<i>mouse click</i>

Footageでの操作方法

Footageには、27個のMovieがあります。そのうち、画面には常に6個だけ表示されています。Movieの周囲にカーソルをもっていくと、カーソルの形が変わります。フレームに赤い枠がついた状態では、左右にもっていくとコマが移動します。この時にマウスボタンを押し続けると、コマは速く進みます。画面の上下ではMovieのスクロールアップ、スクロールダウンする機能が働きます。また、Movieの中をクリックするとその映像がウィンドウいっぱいにも拡大されます。拡大画面上では、tabキーで、元のサイズのMovieがあらわれ、同様の操作が可能です。

基本操作に加え、次の操作が可能です。

■next  ■previous 

NOTICE 使用上の注意

- 「ARAKITRONICS」は13インチのカラーモニタを標準に設計されています。13インチ (640×480pixel) 以外のモニタを使用されている場合、表示サイズが変わるか、もしくは再生出来ない場合があります。
- 「ARAKITRONICS」は24bitカラーデータで作成されており、32,000色 (16bit) 以上の画面表示が可能なシステムを必要とします。(フルカラーで再生するには24bitカラーボードまたはそれと対応のシステムが必要です。)
- 「ARAKITRONICS」は画像の圧縮にJPEGを使用しているため、再生にはQuickTime (Ver.1.6以上) のインストールを必要とします。Quick Time 1.61がインストールされていない場合は、付属のQuick Time 1.61をインストールして下さい。
- 「ARAKITRONICS」は5MBのメモリが割り当てられていますが、メモリに余裕がある場合、快適に動作させるため「ARAKITRONICS」をハードディスクにコピーし、アプリケーション割当メモリを増やして再生することをおすすめします。
- システムフォルダに必要な以外のINITまたは機能拡張はいっている場合、正常に動作しないことがあります。
- 漢字トーク7上で使用する場合仮想記憶をオフにし32ビットアドレッシングをオンにしてから再生してください。
- Quadra以上の機種とアクセスの速いCD-ROMドライブとの組み合わせで使用する場合、正常に動作しないことがあります。

REQUIREMENT 必要システム

Macintosh LCII以上 (68030以上のCPU)、漢字トーク7以上、空きメモリ 5MB以上、QuickTime Ver.1.6以上、13インチ以上のカラーモニタ、24bitのビデオボードまたは16bitカラー表示可能なシステム

- 「ARAKITRONICS」は、マクロメディア社の「MacroMedia Director 3.1.3」を使用しております。
 - 「ARAKITRONICS」は、著作物と同様、著作権保護が与えられていますので権利者の許可なく、レンタル、売買、再販することを禁止します。
- Copyright © 1994 Propeller Art Works Co., Ltd. and its licensors. All right reserved.
Macintosh and QuickTime are trademarks of AppleComputer, Inc. registered in the U.S. and other countries.

本ソフトウェアに関するお問い合わせ先

DIGITALOGUE 〒150東京都渋谷区神宮前3-27-7 TEL:03-3408-2494 FAX:03-3401-5933



DIGIALOGUE Home Museum Series 発刊に際して

テクノロジーの発達、人間の生活様式を変革させました。コミュニケーションの在り方もしかりです。そして、昨今の電子テクノロジーのめまぐるしい進歩は、まさに20世紀最後の、コミュニケーション革命をもたらそうとしています。

たとえば、マッキントッシュのQuickTime技術の発達、音、ビジュアルなシンボル、そして動く映像が同時に扱える環境をつくりあげます。しかし、そんな技術やハードウェアの進歩に較べて、それを十分に生かしきる表現はまだ育っていません。

そんな状況の中で、とりあえず出来ることから始めていく。そこから、電子メディアの奥深い可能性を探っていく環境を、DIGIALOGUEは考えていきます。既製のメディアのもつ完成された表現方法をいかしつつ、まったく新しい体験と感性を構築していく。コミュニケーション・メディアをどう見せるか。どうやったら、使う人の思考を刺激できるか。従来の発想や考え方の範疇を越えて、まったく新しい言語としての表現を模索する必要があります。

そうやって生まれてくるマルチメディアは、新しい視聴覚体験を生みだしていきます。そして、その体験は新しい表現をうみだしていくのです。

ビジュアル表現のまったく新しい言語、それは21世紀にむけての、意識の冒険と変革の旅たちであり新しいフロンティアなのです。

実験的な作品やかつての名作、そして発表されていない優秀な作品をデジタルメディア化、そしてエレクトロニック・コミュニケーションを推進していくContents Publication。

それが、DIGIALOGUE HOME MUSEUM SERIESです。ご期待ください。

DIGIALOGUE General Producer 江並直美

DIGIALOGUE GALLERY

来たるべきエレクトロニックコミュニケーションの時代を見据え、東京・原宿に、世界で初のコンピュータモニターだけで作品を展示するデジタルギャラリーが、1992年11月26日誕生しました。このギャラリーは、写真家の五味彬、PROPELLER ART WORKS江並直美、そしてイギリスを代表するデザイナーNeville Brodyで運営される、マッキントッシュで制作された様々な作品(グラフィック、タイポグラフィ、デジタルフォント、マルチメディア)を展示していくスペースです。マックで制作されたCD-ROMによるマルチメディア作品はもとより、印刷するために制作されたデザインデータもモニターで観賞すると、とても美しい。そんな感動を広く人々に体験していただきます。勿論マック以外のコンピュータで制作された作品や、エレクトロニクスを駆使した実験的な作品の展示も予定しています。エレクトロニック・コミュニケーションは、DIGIALOGUEから始まります。

●DIGIALOGUEが発刊する国内外の一流アーティストのマルチメディア作品シリーズ、DIGIALOGUE HOME MUSEUM SERIESは、常時観賞することができます。

DIGIALOGUE HOME MUSEUM SERIES新作業内、DIGIALOGUE展覧会情報をお送りします。ご希望の方は、氏名、住所、年令、職業を明記の上DIGIALOGUEまで、郵便またはFAXでお申し込みください。



DIGIALOGUE GALLERY TOKYO

〒150 東京都渋谷区神宮前 3-27-7
tel 03-3408-2494 fax 03-3401-5933
AM11:00- PM7:00 (月曜休館)

